

アゴスティとモリコーネ

Silvano Agosti / Ennio Morricone

～イタリア映画界の鬼才～ シルヴァーノ・アゴスティ監督の世界

| 快樂の園 | クワルティエーレ 愛の渦 | カーネーションの卵 |
| 人間大砲 | 天の高みへ | シルヴァーノ・アゴスティ 見えないものを見る人 |

5/1 **土** ~ 5 **祝**

名古屋シネマテーク

本国イタリアやフランスで圧倒的な評価を誇る巨匠シルヴァーノ・アゴスティ
代表作5本+アゴスティ入門ドキュメンタリーを名古屋初上映！

私がシルヴァーノ・アゴスティに出会ったのは、マルコ・ベッロッキオの『ポケットの中の握り拳』(1965年)の編集作業中のことでした。シルヴァーノは編集マンとしてあの作品に参加していて、作品の成功に貢献しましたからね。その出会いの後、私は彼の映画をすべて観て、『快樂の園』のために音楽をつけました。あれは過小評価されていますが、観客を震撼させるとても並はずれた作品ですよ。今回、私はシルヴァーノの『クワルティエーレ 愛の渦』のために作曲をしました。私が思うに、シルヴァーノは現代の才能あふれる完璧な監督のひとりですよ。

—エンニオ・モリコーネ



□主催:名古屋シネマテーク

大阪ドーナツクラブ(イタリア文化紹介)

□共催:名古屋日伊協会

Aプロ (※Aプロは2作品同時上映です)

『快樂の園』

Il giardino delle delizie

1967年/イタリア/モノクロ/74分
監督・脚本:シルヴァーノ・アゴ스티
撮影:アルド・スカヴァルダ/ヴィットーリオ・ストラーロ
出演:モーリス・ロネ/イヴリン・スチュワート/レア・マッサリ

ハネムーン先のホテルで早くもすれ違うカップルの、過去と未来が交錯する。
モリコーネのロックサウンドも異色な、現代にもそのまま通じるテーマを突きつけたアゴ스티の監督デビュー作。



『シルヴァーノ・アゴ스티 見えないものを見る人』

Il senso del mistero

(※本作の音楽はモリコーネではありません。)

2003年/イタリア/カラー/30分
監督:パオロ・フルナット

アゴ스티と同世代の1935年生まれで、これまでに制作したドキュメンタリーは500本以上。
イタリアを代表する記録映画監督フルナットが、シャレた構成でわかりやすく撮りあげた貴重な一本。
これを観れば、アゴ스티の輪郭がはっきりと浮かび上がる!

Bプロ

『カーネーションの卵』

Uova di garofano

(※本作の音楽はモリコーネではありません。)

1991年/イタリア/カラー/103分
監督・脚本:シルヴァーノ・アゴ스티
音楽:ダニエーレ・ヤコ
出演:フェデリコ・ザノーラ/ルー・カステル/アラン・キューニ
特別協力:アンドレイ・タルコフスキー

第2次大戦の終わり、混乱期にあったイタリア北部を、子供たちの視点を通して映像化した自伝的作品。
あのベルトルッチも絶賛した、真正正銘アゴ스티監督の代表作。



Cプロ

『人間大砲』

L'uomo proiettile

1995年/イタリア/カラー/86分
監督・脚本・撮影・編集:シルヴァーノ・アゴ스티

毎晩サーカスで「人間大砲」として打ち上げられる「砲弾男」。火付け役の女イヴリンと恋に落ちた彼は、愛情と嫉妬について悩みを深めていくもの…。
イタリア最高峰の文学賞ストレーガ賞最終候補にノミネートしたアゴ스티の同名小説を自ら映画化。

Dプロ

『クワルティエーレ 愛の渦』

Quartiere

1987年/イタリア/カラー/81分
監督・脚本:シルヴァーノ・アゴ스티

4つの愛の物語、4つの人生の段階、4つの季節を描くオムニバス。すべてが実話なのに、すべてがファンタジック。
モリコーネのベストスコアに挙げられるサントラは必聴。



Eプロ

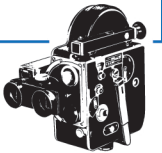
『天の高みへ』

Nel più alto dei cieli

(※本作の音楽はモリコーネではありません。)

1976年/イタリア/カラー/83分
監督・脚本:シルヴァーノ・アゴ스티
音楽:ニコラ・ピオヴァーニ

北イタリア田舎町の代表団がヴァチカンで法王を表敬訪問する。老若男女さまざまな立場のメンバーは、一緒に胸を高鳴らせ、謁見の間へと移動するためにエレベーターに乗り込むのだが…。人間の本质について思いを馳せざるをえない衝撃の問題作。終映後、ルイス・ブニエールは「隠喩のようだが、おぼろげではない。はっきりしている」とつぶやいた。



□開催期間 2010年5月1日(土)~5日(水・祝)

□上映スケジュール

5/1(土)	14:50	16:50	18:40
	A	B	C
5/2(日)	14:50	16:30	18:20
5/3(月)	D	E	B
5/4(火)	14:50	16:30	18:30
5/5(水)	C	A	D

□料金

当日(1プロ) 一般1500円 大学生1300円 中・高生1200円 シニア1000円
前売(3プロ) 一般・学生3600円
*前売券は、名古屋シネマテーク窓口にて4/30(金)まで発売
★同日に2プロ以上ご覧になる一般・学生の方は、2プロめ以降200円引き

□作品内容についてのお問合せ

大阪ドーナツクラブ ▶ info@osakadoughnutsclub.com

□上映会場

名古屋シネマテーク

地下鉄今池・UFJ銀行西180m 052-733-3959

〒464-0850 名古屋市中千種区今池1-6-13
今池スタービル2F

▶ <http://cineaste.jp>

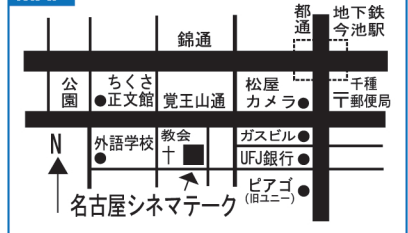
☆定席数 40席く各回入替制

※すべてデジタル・プロジェクターによる上映となります。

※5日16:30の回の上映前に、監督と交流のある大阪ドーナツクラブメンバーによる舞台挨拶があります。

シルヴァーノ・アゴ스티が紡ぎだす華麗なる映像美。
イタリアを代表する映画音楽家エンニオ・モリコーネの美しい旋律。
京都・大阪で大きな反響を呼んだ上映企画
「アゴ스티とモリコーネ」がついに名古屋に登場!

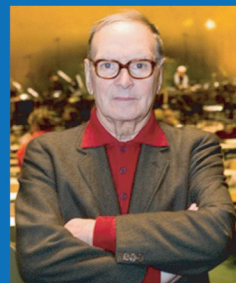
MAP



Silvano Agosti

シルヴァーノ・アゴ스티

作家・映画監督。1938年、イタリア北部、プレージャー生まれ。高校卒業後、崇拜していたチャップリンの生家を訪れるため、渡英。好奇心旺盛な若者の旅は果てることなく、ヒッチハイクで渡り鳥生活を続ける。西ヨーロッパ、バルカン、中東、北アフリカと地中海をぐるりと巡り、ローマへ。62年、国立映画学校監督コースを首席で卒業し、奨学金でモスクワ国立映画学校に留学。編集技術を磨きつつ、エイゼンシュテイン研究に没頭する。旅好きは相変わらずで、卒業後は17連15カ国をまわる。ローマに戻ると、本格的に映画制作に取り組み、問題作を次々と発表する。自主制作にこだわ、配給先は少ないものの、いわゆるインディペンデント作家として絶大な支持を得ている。83年に開いた自身の映画館は、ローマでも有数の名画座となり、映画ファンに愛されている。小説の執筆にも精力的に取り組み、イタリア最高峰の文学賞であるストレーガ賞に2作がノミネートされている。日本では、イタリアでベストセラーになった小説「誰もが幸せになる 1日3時間しか働かない国」(マガジンハウス)の他、「罪のそがた」(シラトパブリッシング)が出版され、高い評価を得ている。



Ennio Morricone

エンニオ・モリコーネ

映画音楽で特に知られるイタリアの作曲家。1928年、ローマ生まれ。サンタ・チェチーリア音楽院で作曲技法を学び、テレビやラジオなどのマスメディアで腕をふるった後、映画界へ。60年代、セルジオ・オーネとのコンビ等で知られる「マカロニ・ウェスタン」の作品群で名を馳せ、イタリア以外からも評価が高まっていく。実験音楽からロックや交響曲まで、作品の幅はたいへん広い。1987年には、「アンタッチャブル」でグラミー賞を獲得。日本では1989年の「ニュー・シネマ・パラダイス」でよく知られるようになり、熱烈なファンも数多く存在する。2003年には、大河ドラマ「武蔵 MUSASHI」の音楽も担当した。アゴ스티とはデビュー当時から親交が深く、アゴ스티作品のサントラのみを集めたコンピレーションCD(左)も発売されていて、日本でも輸入盤として入手できる。

